

9 質問紙調査結果の特徴

- 質問項目は、国が調査結果のポイントとして取り上げている項目から学習指導に関連する内容で抽出
- 回答数値は、質問項目に対して肯定的な回答の割合(単位は%) ● 回答内容は、平成24年度の実施内容

平成25年10月9日
調布市教育委員会指導室

(1)小学校

① 児童の回答

	質問項目	調布市	都	国
1	授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。【反転項目】	49.4	53.9	59.3
2	国語の授業内容は、よく分かる。	84.5	80.5	79.9
3	家の人（兄弟姉妹を除く）と、学校での出来事について話している。	78.6	77.0	76.5
4	算数の授業内容は、よく分かる。	81.4	81.7	80.2
5	国語の勉強は、大切だと思う。	91.8	90.5	91.0
6	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	96.2	95.5	95.9
7	算数の勉強は、大切だと思う。	91.9	91.7	92.1
8	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	86.2	85.6	87.2
9	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	86.1	86.9	88.8
10	家で、学校の授業の復習をしている。	48.3	44.9	51.4

② 学校の回答

	質問項目	調布市	都	国
1	国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行った。	95.0	86.8	83.7
2	国語の指導として、家庭学習の課題について、評価・指導した。	100.0	94.5	96.8
3	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた。	95.0	89.7	92.0
4	算数の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた。	100.0	99.1	99.6
5	授業の冒頭で目標（ねらい・めあて）を児童に示す活動を計画的に取れた。	95.0	95.7	96.5

③ 小学校における各教科の調査結果及び質問紙調査結果について(考察と課題解決のための改善策)

○国語については、「授業内容は、よく分かる」と回答している割合が国や都と比べて高い。特に、「書くこと」や「言語事項」に、学力の伸びを捉えることができるのは、書く習慣を身に付ける授業に重点を置いて取り組んでいるからである。また、他の人に自分の考えを説明したり、文章を書いて表現する工夫が図られているからである。

●家庭で、学校の授業の復習をしている状況は、5割に満たない。国と比較しても3.1ポイント下回っている。家庭学習として課題を与え、その課題について指導を行っている状況ではあるが、改めて家庭における学習の指導を工夫する必要がある。

■国語における課題解決のための改善策
【話すこと・聞くこと】：相手の立場や状況を十分に感じ取ろうとする共感的な態度で、相手が話す内容を理解するとともに、自分の考えを明確にしながら言葉遣いに注意するよう指導の工夫を図る必要がある。

■算数における課題解決のための改善策
【量と測定】：単位量当たりの大きさで比較することは、単位となる大きさを1にそろえて比較することであることを理解できるようにする。特に、二つの数量のどちらを単位とするのか、数値の比較の仕方に着目させ、目的に応じた処理ができるよう指導の工夫を図る必要がある。

(2)中学校

① 生徒の回答

	質問項目	調布市	都	国
1	数学の授業内容は、よく分かる。	74.4	72.0	70.5
2	家で、学校の授業の復習をしている。	51.3	45.7	48.6
3	国語の授業内容は、よく分かる。	74.4	73.1	71.9
4	家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話しをしている。	68.6	66.0	66.6
5	授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思う。【反転項目】	66.0	64.5	67.9
6	国語の勉強は、大切だと思う。	89.3	88.5	88.4
7	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	82.1	79.0	81.4
8	数学の勉強は、大切だと思う。	80.9	80.3	80.5
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	92.6	92.4	93.5
10	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う。	67.0	66.4	69.6

② 学校の回答

	質問項目	調布市	都	国
1	国語の指導として、書く習慣を付ける授業を行った。	100.0	94.2	92.2
2	国語の指導として、家庭学習の課題について、評価・指導した。	87.5	88.4	89.6
3	数学の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えた。	87.5	92.5	92.7
4	授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた。	75.0	82.8	88.1
5	授業の冒頭で目標（ねらい・めあて）を生徒に示す活動を計画的に取り入れた。	62.5	87.3	92.6

③ 中学校における各教科の調査結果及び質問紙調査結果について(考察と課題解決のための改善策)

○国語の指導において、書く習慣を身に付ける授業を計画的に行ったことで、「国語の授業内容は、よく分かる」と回答した生徒の割合が、国の値と比べて高い。

○国語・数学に共通していることは、授業内容の理解状況について国や都を上回っている。基礎的・基本的な内容の理解の定着はもちろん、知識・技能を活かした取組が、この結果につながっている。

●教科指導や家庭学習での課題（宿題）等について、共通理解を図ることや、学校として組織的な学力向上の取組や研究が必要である。

●授業の冒頭で目標（ねらい・めあて）を生徒に示す活動を計画的に取り入れている割合については、国と比較すると、30.1ポイントも下回っており、大きな課題といえる。毎時間の授業において、生徒に目標を明確に示すことは重要なことであり、今後の授業改善において配慮する必要がある。

■国語における課題解決のための改善策
【書くこと】：自分の考えを具体的に書く力を身に付けるために、本や文章のどの部分に特に興味や関心をもったのかを明確にした上で、なぜそこに着目したのか、その内容について自分はどうに考えているのかを丁寧に指導する必要がある。

■数学における課題解決のための改善策
【数と式】：事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明する活動を取り入れた授業の工夫を図る必要がある。